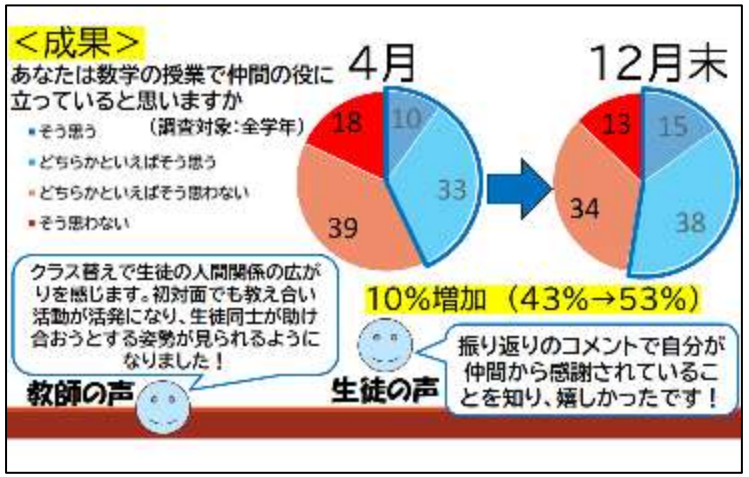
算数・数学で始める！

個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実





「ちばっ子の学び変革」推進事業では、研究指定校が自校の課題解決に向けて、取り組んだ内容について研究状況報告書にまとめています。

算数・数学の実践もありますので、御活用ください。

https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2025/r7kennsyoujigyou.html



千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室

ポイント①：学習の土台づくり



【教師の視点】
<u>１コマの授業づくりではなく、年間指導計画や単元をベースとした授業づくり</u>によって、「全体」「個別」「協働」の学びを計画的に設定していきましょう。

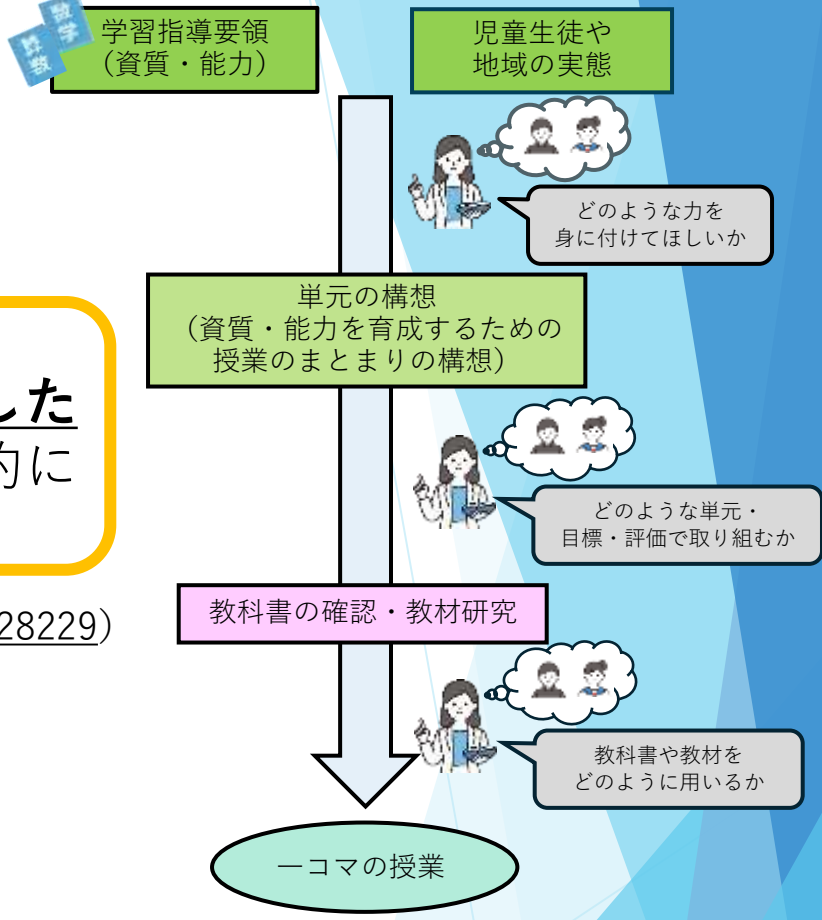
参考：文部科学省「授業づくりnote」（https://mext-curriculum-gov.note.jp/n/nd47debd28229）



参考：文部科学省「生徒指導提要」（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm）



【教師の視点】
<u>どんな児童生徒も「安心して学べる」</u>学習集団を目指しましょう。



ポイント②：児童生徒が「課題（問い）」をもつ

協働 ⇔ 個別



【全員で問いを明確にする場合は…】
　その時間の問題のどこに困ったのか、何を明らかにするのか、児童生徒一人一人が納得している。

【教師の視点】
　何人かの発言だけで、問いを設定するのではなく、算数に苦手意識がある児童生徒に目を向けていきましょう。

個別



【個別の学習を始める場合は…】
　前時の学習の振り返りや学習計画をもとに、その時間の学習の内容や方法について見通しをもつ。

【教師の視点】
　事前に児童生徒の学習状況の把握が必要。
　見通しがもてずに学びが停滞した子供や学習計画の見直しが必要な子供に目を向けていきましょう。

　児童生徒が学習の進度や内容を調整するような学びであっても、学習進度の計画だけでなく、大切にしたい「数学的な見方・考え方」などについて見通しをもつことは、重要です。教師が事前に準備・計画をしましょう。
（昨年度の指導室だよりも御参照ください。https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kj-toukatsu/sidou/sidoushitsudayori.html）



ポイント③：教師の見取りと学びの環境づくり

【例】**５年生「三角形の面積を求める方法」について考える学習**



・「わからないからいいや」とあきらめている。（意欲が低い）



・既習から「変形させる」ことは思いついたが、どのように考えればよいのかわからない。



・考えを一つ表現して満足している。
・公式を既に知っていて満足している。



・複数の変形方法について、図や式を用いて複合的に表現している。

【教師の視点】

◎具体物やプリント、ICTなどの教具、掲示物などの教室環境、「誰と学ぶのか」といった人的環境など、様々な意味での「環境づくり」を意識する。

◎児童の学習状況（困り感など）を見取り、一人一人の実態に応じた働きかけを意識する。

【今回の学習なら、例えば…】

・「○○さんは別の方法を考えていたよ」などと、友達の考えに意識が向くように促す。

・前時のノートや掲示物などに戻り、「なぜ図形を変形するのか」について振り返られるようにする。

・まったく見通しをもてない児童は、友達や教師と一緒に例をもとに考え、思考のきっかけをつくることができるように支援する。

・自分の考えを友達と比較・検討したり、困っている友達を気遣い「大丈夫？」の声を掛けたりできる他者意識を高めるようにする。

ポイント④：全員が学びを調整し、振り返られる環境づくり

個 別



【適用問題や練習問題の「質」や「量」は…】
　児童生徒は、自分の学習状況に応じた内容の問題に取り組む。



【教師の視点】
　児童生徒の様々な学習状況に応じた問題を教師一人が多種多様に準備することは、負担が大きいです。**<u>デジタル教材を活用したり、複数の職員で協力して準備したり</u>**するなど、計画的・組織的に取り組みましょう。



【振り返りは…】
　児童生徒が自らの学びを見直し、次の学習につなげられるようにする。

個 別

協 働

【教師の視点】
　<u>振り返りの「視点」を児童生徒がもてる</u>ように、支援していきましょう。
（例）振り返りを相互に見ることができる環境。
　　よい視点で振り返った内容の共有。



「振り返りシート」の活用

個 別

協 働

　デジタル機器を活用した振り返りの共有

